

桑野塾

桑野塾 検索

<http://deracine.foo.jp/kuwanojuku/>

大学などの研究者に限らず、興味を持って研究していることを自由に発表しあう「広場」です。
どなたでもご参加いただけます。
それぞれの興味が少しずつ重なり合うことで、新たな知見を見いだそうという場です。

第34回

2015年
11月14日(土)
15:00 ~ 18:00

早稲田大学 早稲田キャンパス16号館 820号室

- ★ どなたでもご参加いただけます。会場に直接お越しください。参加無料
- ☆ 終了後、近くの居酒屋で懇親会を開催します。(飲食費は別途)
- ※予約の都合上、懇親会参加をご希望の方はなるべく事前にご連絡いただくと助かります。
- ※報告者・タイトルは変更の可能性もあります。ご了承ください。



私のエッセーニ

報告者：斎藤 秀明

ふたりの日本人ロシア文学者と 21世紀のロシア人を悩ませ続ける

『黒い人』あるいは『不吉の人』をめぐる



セルゲイ・エッセーニン(1895-1925)
『モスクワ居酒屋』(ヴァスクレッセーニエ出版1995)より

今も論争続く、早逝のデカダン詩人の魔力

1925年、エッセーニンは物語り詩『黒い人』を完成させたのちレニングラード(現在のサンクトペテルブルグ)のホテル・アングレテールで命を絶つ。

1956年にスターリン獄から帰還した染谷茂と内村剛介は、日本での生活基盤を固めるべく葉書で頻繁に近況を知らせあっていた。当時エッセーニンの詩の翻訳に取り組んでいた内村は、『黒い人』の解釈をめぐる染谷から「落第」の烙印を押される。

ところが、その詩を巡る論争は21世紀ロシアのネット空間でも続いていた…。

没後90年目のいまも祖国で輝きを放ち続けるエッセーニンのことばをめぐる、時空を超えた論争にスポットを当て、「デカダン詩人」の魔力に迫る。

●斎藤 秀明(さいとう ひであき)

1955年生まれ。1979年 東京外語ロシア語科卒。
在学中に一年間、内村剛介の警咳に接する。卒業後は名古屋の放送局に勤務。



ホテル「アングレテール」の壁面



染谷茂から内村剛介(内藤操)に送られた葉書(昭和33年頃)

